

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：東川 直正

事業名 旭川十勝道路（一般国道237号） 富良野北道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局
起終点 自：北海道空知郡中富良野町字中富良野 至：北海道富良野市字学田三区		延長 5.7 km
事業概要 旭川十勝道路は、旭川市を起点とし、富良野市を經由して占冠村に至る延長約120kmの地域高規格道路である。 このうち富良野北道路は、高速ネットワークの拡充による上川圏と十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び物流の効率化等を支援するとともに、富良野市街における交通混雑、交通事故の低減を図り、道路交通の定時性、安全性を向上させることを目的とした延長5.7kmの事業である。		
H20年度事業化 全体事業費	H一年度都市計画決定 約176億円	H22年度用地補償着手 事業進捗率 約45% (平成30年3月末時点)
		H22年度工事着手 供用済延長 0.0 km
計画交通量 5,900台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/ (事業全体) 90/194億円 (事業費：67/171億円) (維持管理費：23/23億円)
		総便益 (残事業)/ (事業全体) 222/222億円 (走行時間短縮便益：174/174億円) (走行経費減少便益：36/36億円) (交通事故減少便益：12/12億円)
基準年 平成30年		
感度分析の結果 事業全体及び残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.01~1.3（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1~1.2（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.1~1.2（事業期間±20%）		
【残事業】交通量：B/C=2.2~2.8（交通量±10%） 事業費：B/C=2.3~2.6（事業費±10%） 事業期間：B/C=2.4~2.5（事業期間±20%）		
事業の効果等 事業の必要性及び効果 <ol style="list-style-type: none"> ① 主要な観光地への利便性向上 ・上川地域と十勝地域を結ぶ周遊観光の利便性向上が期待される。 ② 交通混雑の緩和 ・並行現道区間の通過交通の一部が当該道路に転換することで、交通混雑の緩和が期待される。 ③ 道路交通の安全性向上 ・富良野市街地に集中する交通の分散が図られ、道路交通の安全性向上が期待される。 ④ 農産品の流通利便性向上 ・速達性及び定時性の高い輸送ルートが確保され、農産品の流通利便性向上が期待される。 ⑤ 災害時の緊急輸送ルートの強化 ・被災時の迅速な避難や救援物資等の輸送に寄与することが期待される。 		
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 富良野市、旭川市など4市17町2村の首長等で構成される「北海道上川地方総合開発期成会」等から整備促進の要望を受けている。 知事の意見： 地域ネットワークの構築により、富良野市街地における交通混雑の緩和と沿道環境の改善とともに富良野・美瑛地域の連携強化を図り、物流効率化の支援や個性ある地域の形成など、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はありません。 なお、事業の実施にあたっては、平成11年10月7日付け環政第550号「地域高規格道路旭川十勝道路（中富良野町～富良野市間）に係る環境影響評価準備書について」の知事意見を遵守するとともに、徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期供用を図るようお願いいたします。		

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・北海道横断自動車道 夕張IC～トマムIC間開通
- ・広域観光周遊ルート形成計画
「アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北・海・道」認定
- ・道の駅『びえい「白金ビルケ」』開業
- ・富良野・美瑛観光圏整備実施計画認定
- ・旭川十勝道路 北の峰IC～布部IC間開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成22年度に工事着手して、用地進捗率約83%、事業進捗率約45%となっている。
(平成30年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地質調査結果に基づく施工計画の見直しによる変更。
引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造、工法等の変更は無いが、引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

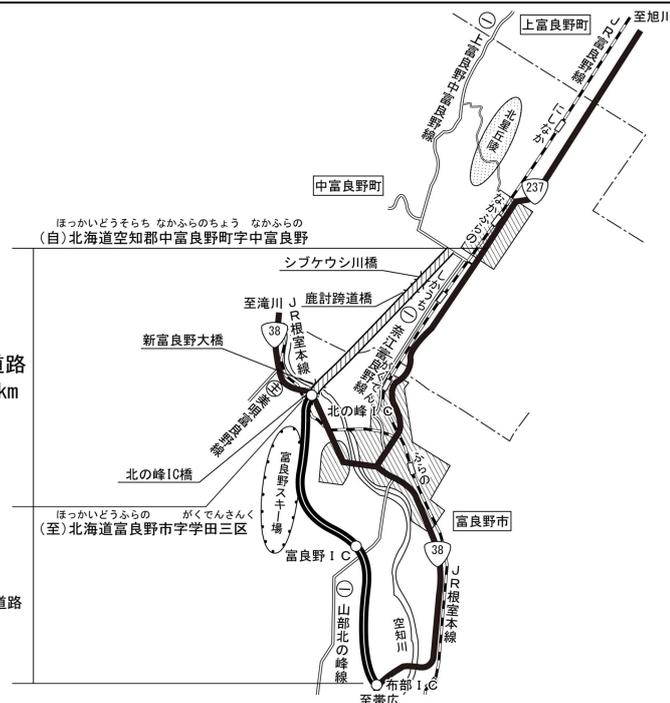
事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



富良野北道路
延長 5.7km

凡 例	
	開通区間
	再評価区間



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 費用対効果分析結果及び感度分析の結果の欄に係る数値は平成30年度評価時点。